

第19回事務システム研修会

開催要項

A日程 平成12年10月11日(水)～13日(金)

B日程 平成12年10月18日(水)～20日(金)

社団法人私立大学情報教育協会
研修運営委員会

平成12年度・私情協研修等事業一覧	
7月	事務システム基礎講習会
8月	学内LAN運用管理講習会
8月	授業情報技術講習会
9月	情報センタ等部門研修会
10月	事務システム研修会
11月	事務部門管理者会議

．研修目的・テーマ

この研修会は、基本テーマに基づき学内事務システムの様々な切り口からグループを設定し、グループ内の参加者相互によるシステムの事例紹介、討議を通して知識・技術の交換を行います。それによりシステムの具体的な内容、問題解決の方法について理解するとともに、大学全体の情報システムについて今後のあり方を展望し、加盟大学事務情報システムの発展と担当者の質的向上を図ることを目的とします。

研修会テーマ 「学園情報（ＩＴ）化の鍵となる職員の意識改革」

．研修内容

目的：学内の基幹業務あるいは業務を横断する内容について討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解する。また必要に応じて専門家・経験者を招いて講演を聴き質疑応答・意見交換等も行う。

１．Ａ日程（７グループ） １０月１１日（水）～１３日（金）

グループ	グループテーマ
A - 1	入学業務システム
A - 2	学生個人情報の管理と活用
A - 3	カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース
A - 4	履修登録と成績管理システム
A - 5	奨学金管理システム
A - 6	就職支援システム
A - 7	学術情報システム

２．Ｂ日程（６グループ） １０月１８日（水）～２０（金）

グループ	グループテーマ
B - 8	人事・給与システム
B - 9	管財・施設管理システム
B - 10	ホームページを利用した戦略広報システム
B - 11	学園の戦略情報化計画
B - 12	学園統合システムの構築・運用
B - 13	イントラネットによる業務の効率化

3. 全体講演、事例発表とデモンストレーション

21世紀を目前に大学を取り巻く社会環境は刻々と変化しており、多くの大学で、建学の精神を基盤とした大学改革への取り組みを実施し、社会の要請に応えるための努力が始められています。「意識改革、組織改革が進む大学の中で、大学職員に求められる資質とは何か？」について、トップマネジメントの視点から解説する基調講演を行います。

『21世紀への大学創造と職員の意識改革』

講演者 慶應義塾大学塾監局長 孫福 弘 氏

また、必要に応じて、プログラムの中で実機の展示を行う他、最新技術に関する理解促進のため、当協会賛助会員企業によるデモンストレーションを行います。

・研修方法、研修期間

各日程とも、2泊3日の合宿研修です。

A日程：平成12年10月11日（水）～13日（金）

B日程：平成12年10月18日（水）～20日（金）

・参加資格

加盟大学職員： 当協会加盟大学・短期大学の事務系職員で、事務情報システムの企画、運用、サポートなどに携わっている方。グループのテーマに関心がある方で、積極的に意見交換できる方。

賛助会員： 本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方で、討議に積極的に参加の上、関連情報の提供などにより参加グループの討議促進に貢献できる方。

・参加者レポート

参加者は、参加するグループのテーマについてレポートを提出の上、グループ内で交換し、事前に討議・発言の内容を研究することとします。

レポートの作成方法については「レポート作成要項」をご参照ください。

・募集定員

各グループとも、定員を30名程度とします。

・参加費（宿泊費は含みません。）

1人 26,500円

・開催会場および宿泊

<会場> 『グランドホテル浜松』

<所在地> 静岡県浜松市東伊場1-3-1 TEL:053-452-2111

<交通機関> 東海道新幹線「浜松駅」下車。浜松駅より送迎バスを用意いたします。バス発車時刻、集合場所等については、後日、参加者確定通知に含めて連絡いたします。

<宿泊費> 1人 26,000円

本講習会は合宿研修のため、参加者は全員グランドホテル浜松に宿泊していただきます。（部屋割りは当方で決めさせていただきます。なお、部屋割りは原則として大学毎、参加グループ毎の2名以上の相部屋としますのでご了承下さい。）

宿泊費は、開催日第1日目受付時に、参加者個人別にホテルへお支払い頂きます。

・参加申し込み方法および締切期日

以下2点を大学ごとに一括とりまとめて同封し、7月31日（月）までに私情協事務局まで郵送にてお送り下さい。 締切日以降でも定員に余裕があれば申込を受け付けますので、事務局にお問合せください。

1. 参加申込書 ……貴学の参加者全員についてとりまとめの上、作成してください（各大学で1通作成）。

参加される方々全員の名前、役職、参加を希望されるグループ等、所定事項をもれなく記入してください。開催要項に添付の参加申込書に記入いただくか、あるいは、私情協Webページに掲載のMS-EXCELワークシートをダウンロードして作成願います。

（<http://www.shijokyo.or.jp/LINK/news/news2.htm#event19>）

MS-EXCELにて作成の場合には、ワークシートファイル、印字出力したワークシートの両方を同封してください。ワークシートファイルは「2.参加者レポート」と同じフロッピーディスクに納めて下さい。

2. 参加者レポート ……各々の参加者全員が作成し（各大学参加人数分作成）

「XII.参加者レポート作成要領」により各参加者が作成の上、参加者全員分の参加者レポートを納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。

募集締め切り後、事務連絡担当者宛に参加者確定等についてご案内いたします。（8月20日頃になります）

<申込先> 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-14 No.1山崎ビル4F
社団法人私立大学情報教育協会 事務局
TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473

．参加費納入方法

参加費は、参加者確定後、大学ごとに一括して10月2日(月)までに銀行振込によりご納入ください。

<振込先> あさひ銀行 市ヶ谷支店 普通預金
口座番号：54409 名義人：(社)私情協

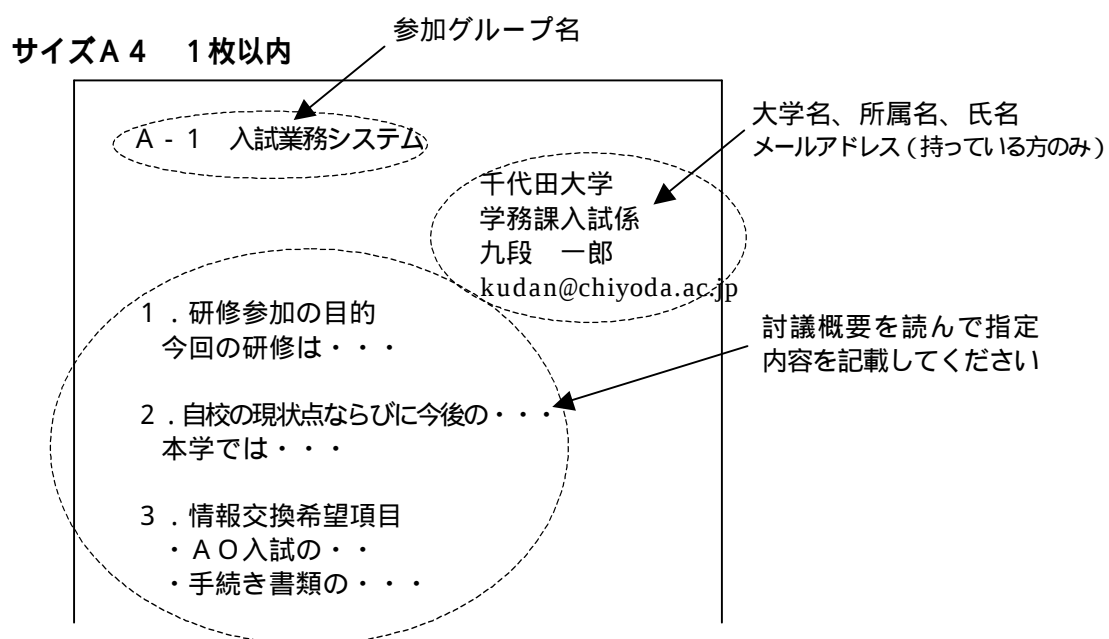
．研修会報告書

本研修会終了後、報告書を刊行し参加者全員に送付いたします。

．参加者レポート作成要領

『 各グループの討議概要』に記載された参加者レポートの記載項目を参照の上、以下の形式で作成してください。

レポートは事前に同グループの参加者に配布され、討議の参考資料といたします。



レポートの提出は、参加者全員分の文書ファイル(MS-WORD 等)を納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。文書ファイルは大学毎に1枚のディスクにまとめ、参加者名をファイル名にしてください。

例 kudan.doc

・各グループの討議概要について

テーマ・内容は参加者の討議希望内容によって若干の変更を行うことがあります。

A - 1 入学業務システム

1. グループ討議のメインテーマ

「入試制度多様化への対応と入学業務システムの問題解決」

2. グループ討議の内容・形態

大学は、受験者数の減少に伴い、入学業務の経費節減、入試業務の合理化、合理的な入学業務システム構築の必要性に直面している。

本コースでは、大学を取り巻く厳しい現状を踏まえ、多様化する入試制度への対応や入学業務システムの問題等を参加者より提議いただき、討議を通じて問題解決の方途を模索していきたい。単なる情報収集だけの受身的参加でなく、問題意識と課題解決への意欲を持って参加していただきたい。

<キーワード>

入学者選抜制度、学生募集、志願受付、採点、合格判定、合格発表、入学処理、入試データ活用、セキュリティ対策

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、3～4のミニ事例発表をお願いする予定である。積極的にお引き受けいただきたい。

4. 参加者レポート

グループ討議の円滑運営のため、下記事項を項目別にまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

「研修参加の目的」

上記キーワードについて「自校の現状と問題点」および「今後の計画とシステムに望むもの」

「情報交換希望項目」

A - 2 学生個人情報の管理と活用

1. グループ討議でのメインテーマ

「学生個人情報の合理的な管理と活用～卒業生、校友管理を見据えて」

2. グループ討議内容・形態

校内LANの整備によって各業務部門が相互に接続され、部門間の情報を共有し、効果的に活用することが望まれている。とりわけ、学生に関する情報は、各部門にて多岐に亘る内容が取り扱われており、その整理、統合、共有化を図ることは、学生サービスの充実のみならず、教育支援業務全体の効率化を進める上で大きな課題となってきた。

本コースでは、在学生・卒業生の個人情報の共有化と、効果的な活用方法について討議を行う。また、個人情報の取り扱い、情報セキュリティー等の問題についても、規程面、技術面などの採るべき対応策について意見交換を行い、望ましい情報共有、情報管理のあり方を模索することにした。

< サブテーマ >

- ・ 学生情報の共有と活用
- ・ 卒業生、校友情報の管理と活用
- ・ セキュリティ、個人情報の保護

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、数例のミニ事例発表をお願いする予定である。

4. 参加者レポート

グループ討議の円滑運営のため、下記項目についてまとめまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

学生情報管理について自校の現状と問題点について

卒業生情報の管理形態と問題点について

学生情報・卒業生情報を活用したサービスについて自校の現状と計画について
情報交換希望項目

A - 3 カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース

1. グループ討議でのメインテーマ

「教学事務改革とシラバスデータベース、学習支援としての教学事務の情報化」

2. グループ討議内容・形態

大学の教育現場で抱えている課題の一つとして、学生の学習意欲の高揚と授業への積極的な参加が指摘されているが、そのための具体策はあまり耳にしない。このまま何も対策を講じなければ、おそらく多くの大学において授業が学生に魅力ないものとなり、ひいては教育の質の低下を招く恐れがある。これらの問題点は、教員が学生に対して責任ある授業を展開することが全てではあるが、その内容を解りやすく、また学生の目線に沿った形で情報を提示することが一つの解決手段であり、そのための基本環境として考えられるのがいわゆる運営計画(シラバス)であって、大学が学生に対して責任ある授業を保証する唯一の契約とも言える。

そこで、本コースでは、シラバスを教学事務の中心に据えて、どのような学習支援体制に取り組むことが望ましいか等について、経験を踏まえてながら討議したい。

具体的には、シラバスデータベースの望ましい形態、構築システム、インターネットでの開示システム、時間割作成などを織り込んだシステムのあり方他、教学事務の諸問題を討議する。

< 討議項目 >

シラバスデータベースの理想形

- ・ 学生ニーズ多様化への対応（学生満足度の向上に向けて）
 - ・ 学生活動支援（自主的な学生ライフ設計、長期時間割作成）
 - ・ 履修申告期間とシラバスデータベース検索システム
 - ・ 授業評価の反映、学生とのコミュニケーション
- 教学事務の改善（カリキュラム・時間割作成を中心に）
- ・ 学内情報、資産、施設、の有効活用、コスト軽減への効率的活用
- 大学事務組織と教職員の意識改革の必要性

<サブテーマ>

- ・ インターネットとシラバスデータベース
- ・ 履修登録システムとシラバスデータベース
- ・ カリキュラム・時間割編成とシラバスデータベース
- ・ 教学事務のO A化、情報共有による教育支援
- ・ シラバス内容の学部・学科での認証

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、2～3のミニ事例発表をお願いする予定。

4．参加者レポート

上記のサブテーマに沿った自校の現状と問題点、討議希望事項をまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

A - 4 履修登録と成績管理システム

1．グループ討議のメインテーマ

「カリキュラムの多様化に対応する柔軟な履修登録と成績システム」
～理想的な履修登録と成績システムを目指して～

2．グループ討議の内容・形態

大学審議会答申の「多様な学習需要に対応する柔軟化・弾力化 - 学生の主体的学習意欲とその成果の積極的評価 -」で指摘されているように、今後の大学では、セメスター制、大学間相互履修、多地点遠隔講義など、カリキュラムの多様化が進行すると考えられ、それに伴い、履修登録、成績管理のシステムは、複雑化する業務を柔軟に処理できるように改善する必要がある。

本コースでは、今後、ますます多様化するカリキュラムに対して、教学システムは、どのような点に留意しなければならないのかを考え、カリキュラム管理、履修登録、授業支援、成績登録、単位認定、成績通知等、一連のシステムに内在する問題点を整理し、理想的な教務システムを模索していきたい。

<サブテーマ>

- ・ 大学連携と単位互換
- ・ インターンシップによる実学教育のあり方
- ・ 履修登録の現状と問題点
- ・ 成績管理システムの現状と問題点
- ・ ネットワークを利用した教務システム

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者の自校がどのようにシステムを構築し運用しているかについて、参加者レポートの内容によりミニ事例発表をお願いし、これらを参考にグループ討議を行いたい。

4．参加者レポートの形式

本グループへの参加の動機、自校のシステムの構築・運用状況・問題点および情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

A - 5 奨学金管理システム

1．グループ討議のメインテーマ

「道具としての奨学金システムからその活用へ」

2．グループ討議の内容・形態

これまでの奨学金システムは、募集から返還までの一貫したシステムとして活用されてきたが、今後は、経済的に困窮する学生が一人でも多く取得できるような指導・相談等の機能を含めたトータルシステムとして構築する必要がある。

そこで、本コースでは、学生指導にも重点を置いた奨学金システムのあり方とその活用方法について討議し、これからの奨学金システムのあるべき姿、新たな活用方法を見いだすことができればと考えている。

なお、参加大学より数例のミニ事例発表をお願いし、それらを参考にしてグループ討議を行う予定である。

<サブテーマ>

- ・出願データの効率的な入力方法
- ・選考基準の評点化
- ・各種様式の作成
- ・返還の管理
- ・情報の共有化と連携
- ・奨学金システムの新たな活用方法（学生指導）

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容より、数例のミニ事例発表をお願いする予定である。このミニ事例発表では、奨学金システムの開発・運用・保守を中心に問題点等も含め、発表していただきたい。

4．参加者レポートの形式

このグループへの参加動機、自校のシステムの構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

A - 6 就職支援システム

1. グループ討議のメインテーマ

「インターネット時代の就職支援業務」

2. グループ討議内容・形態

インターネットが急速に拡大している中で、就職支援業務は大きく変容しつつある。例えば、従来、就職課を通じて学内掲示板に開示していた求人情報は、企業がWebページに掲載し、学生が個々にアクセスすることによってネットワークを通じた求人・申込みが行われるようになってきている。

しかし、それらインターネットに紹介されている求人情報や、市販のデータベースだけでは、就職情報として必ずしも十分ではないため、情報の信頼性などについては、大学が、校友会などの情報源から独自に補完することが必要となっている。また、よりきめの細かい情報として、採用試験など、学生の就職活動内容を日々収集し、共通的に必要とされる情報を瞬時に共有できるよう学内LAN上のシステムに工夫が施されることも必要であろう。

本コースでは、以上のような状況を踏まえつつ、ネットワークの活用を中心とした新しい形態の就職支援のあり方について討議し、大学として戦略的に取り組むべき方向性、方策について考えたい。

<サブテーマ>

- ・就職支援システムに求められているもの
- ・学外インターネット就職情報の活用と課題
- ・就職支援情報システムの高度化策

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、2～3のミニ事例発表をお願いする予定。

4. 参加者レポート

下記項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

就職業務担当年数。システム化の経歴

1学年の学生定員概数と、その中でE-Mailを使用できる学生の割合

就職担当部署の職員数と、取り扱い求人先情報の概数

自学システムの概要と特徴

商用DBとの契約、大学間連携、卒業生協力など特筆すべきことがあれば必ず記載してください。

研修会参加の動機と討議希望事項

A - 7 学術情報システム

1. グループ討議のメインテーマ

「学術情報システムへの変革を目指して」

2. グループ討議の内容・形態

インターネット環境の普及により、図書館を中心とする学術情報は、紙媒体から電子媒体による情報流通へと大きく変容している。

他方、情報通信技術の高度化により、大学で収集・発信される情報の範囲も国内にとどまらず、学術情報整備には、地球規模的な水準での対応が求められてきている。

本コースは、図書館の組織変更、増築、新築といった変革の大きな機会に、どのような点に留意しながらインターネット時代の学術情報システムを考えるべきか、参加校の事例を踏まえて討議する。

<サブテーマ>

- ・電子情報サービス — 電子図書館の構築にむけて 電子ジャーナルの活用
- ・ILL, ドキュメントデリバリーサービス — 世界中からあらゆる資料を入手するために
- ・情報管理システム — 多言語システムへの移行
- ・ホームページ - 図書館で利用できる情報を統合する

3. ミニ事例発表

参加者の中から、教育と図書館、研究支援として積極的に運用している大学があれば、事例発表をお願いしたい。また、新しい図書館構想を検討している大学からの発表もお願いしたい。参加者レポートの内容をもとに、各大学の現状報告をお願いする予定。

4. 参加者レポートの形式

このグループへの参加の同期、自校のシステムの構築・運用状況。このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

B - 8 人事・給与システム

1. グループ討議のメインテーマ

人事・給与情報システムの構築とその活用

「個人情報の管理」から「情報分析に基づく人材の有効活用」へ

2. グループ討議の内容・形態

一般に、人事業務とは、異動、昇任・昇格、採用などの人事管理、勤務規律、福利厚生などの労務管理、給与支給業務などから構成されている。人事業務を遂行する上で、「人的資源の効率的活用・業績評価システム、優秀な人材の育成と発掘に向けての能力開発」や、「独自性の発揮と福利厚生施策の充実」などが課題として求められている。

本コースでは、このような時代の要請に対応するために、高度な情報通信技術を有効に利用し、迅速かつ確実な処理機能を備えた人事・給与情報システムとして、業務の一元化と効率化、人材活用のための情報分析などの問題点について、他の業務システムとの連携も含めて、よりよいシステムの構築と改善について検討していきたい。

また、人事・給与情報システムの情報は、個人のプライバシーに関わる情報が多岐に含まれている。このため、データ管理など機密の保持に特に注意を払う必要がある。

しかし、大学内の各業務システムを運用するうえで必要不可欠なデータが多く含まれていることも事実である。この二面性を十分に考慮しつつ以下のサブテーマについて、事例紹介を交えながら、検討・討議し、問題の解決を図りたい。

<サブテーマ>

- ・ 人事情報の共有化（個人情報のDB化など）とプライバシー
- ・ 情報のセキュリティ対策
- ・ 人事管理情報と給与情報の連携
- ・ 人事管理情報と他システムとの連携

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

各大学がどのようにシステムを構築し運用管理しているかについて、ミニ事例発表をお願いし、これらを参考にしてグループ討議を行いたい。

参加者事前レポートの内容をもとに、各大学の状況報告をお願いする予定。

4．参加者レポートの形式

このグループへの参加動機、自校のシステム(人事管理、給与処理)の構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

B - 9 管財・施設管理システム

1．グループ討議のメインテーマ

「経営・企画に役立つ管財・施設管理システム」とは？

2．グループ討議の内容・形態

本コースでは、管財・施設管理の広範囲に亘る業務の中から、特に固定資産並びに物品の管理に関する「財務システム」についての問題点やシステム構築について討議するとともに、人材育成の場として豊かなキャンパス環境を創造していくことが極めて重要であるとの視点から、「施設管理システム」についても、以下のサブテーマに留意しながら討議・検討し、問題解決の方途を模索したい。

<サブテーマ>

- ・ 施設情報の電子化（各種管理台帳・修繕履歴等）
- ・ 固定資産のライフサイクル（調達・取得から利用・維持管理）
- ・ 他システムとの連携
- ・ 情報のコントロールとマネジメント（計画的な施設管理）
- ・ システムのアウトソーシング（外注化）

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

各大学がどのようにシステムを構築し運用管理しているかについて、ミニ事例発表をお願いし、これらを参考にしてグループ討議を行いたい。

参加者事前レポートの内容をもとに、各大学の現状報告をお願いする予定。

4．参加者レポートの形式

このグループへの参加の動機、自校のシステムの構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

B - 1 0 ホームページを利用した戦略広報システム

1. メインテーマ

「転換期を迎えるホームページ広報」

2. グループ討議の内容・形態

昨年度は、双方向的な広報手段という位置づけでホームページ広報の可能性を探ったが、そこで明らかになった点は、各大学において広報のポリシーを明確に持たなければ、ホームページを構築しても戦略的な広報システムとはなりえないということであった。

本年度は、それらの問題提起を継承しながら、従来のホームページ広報を見直し、「大学へのニーズに的確に応えるホームページとは何か」、「それを実現するための組織・体制とはどのようなものであるべきか」、「またそれを支える技術基盤はどう変化していくか」等々、ホームページ広報の姿を多角的に討議し、大学として留意すべき点を整理したい。

< サブテーマ >

- ・大学のホームページコンテンツの特殊性
- ・企画、作成、運営体制
- ・セキュリティ
- ・Web開発の技術基盤（インタラクティブWeb、e-Business）
- ・アウトソーシング（ホームページ作成からホスティングサービスまで）

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者レポートの内容から、数例の事例発表をお願いする予定である

4. 参加者レポートの形式

以下の項目について自校の状況をまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

ホームページアドレス

ホームページの特色（ポリシー、ねらい、i-mode対応等技術的な特徴、その他）

このテーマに関する情報交換希望項目

B - 1 1 学園の戦略情報化計画

1. グループ討議のメインテーマ

「情報化推進組織と人材育成」

2. グループ討議の内容・形態

教育研究面での情報技術の活用がますます進む中で、大学の教育は、地球的な規模での広がり(グローバル化)、および、教室を越えた遠隔授業の展開(オープン化)、教材の電子化と共有化、ネットワークによる教員と学生とのコミュニケーション(バーチャルオフィスアワー)、生涯学習への対応など、これまで経験しないような新しい展開が要請されている。

このような変化を踏まえて、大学の情報化戦略をイメージするには、現在の組織化や人事制度を越えて考えることが、より現状に対する問題点を明確にすることができることから、今回は、全く新しい大学を新設するという仮定の中で、その大学が整備すべき情報化推進組織のあり方、職員の資質を向上させる工夫について、基本的な問題および具体的な対応について、参加者がトップマネジメントのメンバーになったつもりで討議を行いたい。

<キーワード>

- ・研究・教育と事務の区分けは必要か(教員と職員の問題)
- ・自立主義か産学共同体か(アウトソーシングの問題)
- ・採用計画(新卒者と社会人採用の問題)
- ・大学にキャンパスは必要か(ＩＴを駆使して在宅(在勤)学習は可能か)

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

事例発表として、早稲田大学の「情報化要員の育成への取り組み」を、お願いする予定である。また、必要に応じて参加者レポートの中からミニ事例発表をお願いすることもある。

4. 参加者レポート

参加者は、自校の情報化推進に関する組織、人材育成の問題点又は評価でできる点をまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

B - 1 2 学園統合システムの構築・運用

1. グループ討議のメインテーマ

「統合化が目指すもの」 - なぜ、統合化なの -

2. グループ討議の内容・形態

本コースは、学園事務情報システムの基本的な考え方について討議を行うため、ネットワークの普及に伴う分散管理・集中管理などの方法論はもとより、情報の共有化や事務情報の情報開示を行う場合の問題点など、以下のサブテーマに留意しながら討議検討し、問題解決を模索し、方向性を模索したい。

<サブテーマ>

- ・統合化
- ・分散管理、集中管理
- ・データベースの構築
- ・ＥＵＣ

- ・データウェアハウス
- ・情報開示、セキュリティ

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者の事前レポートの内容をもとに、各大学の現状報告をお願いするとともに、テーマに沿ってグループ討議を行いたい。

4．参加者レポートの形式

このグループへの参加の動機、自校のシステムの構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

B - 13 イン트라ネットによる業務の効率化

1．グループ討議のメインテーマ

文書管理とコラボレーション、その具体化手法の研究

2．グループ討議の内容・形態

大学が、その使命である教育研究活動を真に達成しようとするれば、構成員である教員、職員が、一定の共通理解のもとに管理運営に携わることが必要である。そのためには、構成員一人一人が必要とする情報を共有した上で、物事を判断し、行動することが求められる。

本コースでは、以下に掲げる情報環境を駆使して、とりわけ文書管理をはじめ、グループウェア、電子掲示板などの情報技術の活用法について、事例を踏まえつつ理想的な情報共有の姿を模索したい。

<サブテーマ・キーワード>

- ・イン트라ネット
- ・グループウェア
- ・電子掲示板
- ・電子会議室
- ・スケジュール管理
- ・文書管理など
- ・コミュニケーション（教員と学生、学生相互の文書共有など）

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

原則として参加者全員がミニ事例発表を行う。

4．参加者レポートの形式

ミニ事例発表、自大学で実践または計画している、イン트라ネット技術を使った業務の効率化事例を発表出来るようにまとめたレジュメの事前提出を、参加の必須要件とする。

. 研修会日程

	1 日目	2 日目	3 日目
7:00		朝 食	朝 食
9:00		グループ討議	グループ討議
		Coffee Break	Coffee Break
10:30		グループ討議	グループ討議 アンケート記入後解散
12:00	受 付	昼 食	
13:00	開会式		
13:30	全体講演 事例発表会	グループ討議	
		Coffee Break	
15:30	グループ討議	グループ討議	
17:00	チェックイン 休 憩	休 憩	
18:00	懇親会	夕 食	
19:00		フリーディスカッション (システム展示会)	

プログラムは場合により変更することがありますので、あらかじめご了承ください。